

肥前鹿島干潟

(ひぜんかしまひがた)

位置：北緯33度6分、東経130度7分／標高：-2.5～1m／面積：57ha／湿地のタイプ：干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：佐賀県鹿島市／登録：2015年5月／国際登録基準：2、4、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：干潟



ジャンプするムツゴロウ



顔をあさるムツゴロウ(写真:中村安弘)



北西からみた肥前鹿島干潟の全景



潟スキーをたくみにあやつる伝統漁(写真:中村安弘)

湿地の概要：

肥前鹿島干潟は、有明海西岸に位置し、佐賀県南部を流れる塩田川と鹿島川の河口沿岸に発達した泥干潟である。有明海最奥部の北岸にある東よか干潟と向きあって対峙した位置にある。反時計回りの有明海潮流の下流部、最も狭く奥まったところにあたる。

有明海に流入した土砂は、大きい砂の粒子が先に堆積し、細かい泥の粒子は潮流によって遠くまで運ばれる。有明海東岸には荒尾干潟のような砂質干潟が形成され、奥部から西岸に位置する肥前鹿島干潟では泥干潟が特に発達している。

ムツゴロウ、ワラスボ、ハゼグチ、ウミタケ、シオマネキなど豊かな干潟の産物に恵まれる。ズグロカモメ、チュウシヤクシギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモなど多くの渡り鳥が飛来し、シギ・チドリ類の重要な渡りの中継地、越冬地となっている。

泥干潟ならではの伝統漁法：

肥前鹿島干潟は、粘土質の微細な土砂が深いところは数10mも堆積した泥干潟で、地表面をサクサクと歩ける砂質干潟と違い、足が泥にのめり込んで歩くのは容易でない。そこでこの地域で考案されたのが「潟スキー」である。幅30cm、長さ2mほどの板を干潟の上に置き、片膝を乗せ、もう一方の足で泥を蹴って前へ進む。今も肥前鹿島干潟でおこなわれている「むつかけ漁」「スポカキ漁」「タカッポ漁」など伝統的な漁業に使われて

いる。「むつかけ漁」と「スポカキ漁」は、それぞれ、泥の中に潜む魚類のムツゴロウとワラスボをとるための専用の漁具を用いた漁法で、「タカッポ漁」は泥の中巣穴に筒状の罟をしかける漁法である。

干潟のワイズユース：

干潟は渡り鳥にとって重要なだけでなく、魚貝やノリなどの生産場所として、天然の水質浄化機能として、人間生活にも重要な価値をもっている。前述のとおり、干潟の産物は地元の人に親しまれ、「前海もん」と呼ばれてきた。

干潟の価値を人々に知ってもらうため、鹿島市では小学生や市民を対象に毎年、野鳥観察会を開催している。また、肥前鹿島干潟に近接した場所で、干潟の中での運動会「ガタリンピック」を開催しており、大人から子供まで泥だらけになっ

て干潟に親しみ干潟を学ぶ地域の重要な行事となっている。

●関係自治体

鹿島市役所 Tel: 0954-63-2111

